

にしだ昭二 県政通信

2011年初秋号



平成23年4月の
西田昭二県議

H23.4.11 北陸中日新聞

ごあいさつ

今年は梅雨明けも早く昨年以上に猛暑日が続いていますが、如何お過ごしでしょうか。こんにちは！県議会議員の西田昭二です。皆様のお蔭をもちまして無事二期目を迎えることが出来ました。厚生文教委員長として今任期の初議会である6月の県議会を終え、今まで以上に責任も重くなり身の引き締まる思いであります。現在は、委員会等の視察が入ったり、研修会や勉強会の開催、夏祭りのイベントや文化・芸術に関する催し物なども多く日程が立て込む時期でもあります。加えて地域からの要望や陳情、相談等もいつも通りで対応に追われる毎日です。こうした日々の活動の積み重ねは自らを磨く機会であると考えております。今後も微力ながら努力を重ね、七尾市の振興・発展のため頑張っまいりますので今後ともよろしくお願ひします。

西田昭二プロフィール

- ・1969年七尾市石崎町生まれ(42歳)
- ・七尾商業高校、愛知学院大学商学部卒
卒業後、地元七尾出身瓦力代議士の秘書として10年間経験
- ・2001年10月七尾市議会議員選挙にて32歳で初当選(通算3期)
- ・2007年4月石川県議会議員選挙にて37歳で初当選(現在2期目)
- ・自由民主党石川県連青年局 局長
- ・県議会厚生文教委員会 委員長
- ・県議会新幹線対策特別委員会 副委員長
- ・教員免許取得 【家族構成】妻・二女 (小2、小4)

~にしだ昭二事務所~

〒926-0173
七尾市石崎町ソ部5

TEL & FAX
0767-62-2525

MAIL
hatibe34@hotmail.com

初心を忘れることなく！ 2&6月議会・一般質問より

県議会初当選から4年半。この間、17回の県議会定例会が行われ、これまで初会からずっと一般質問や特別委員会での質問を続けています。選挙の前に行われた2月議会でも登壇しました。細かな質問もありましたが、『地元七尾を大切に』との思いであり、県議会議員として県との『つなぎ役』に徹する思いは、今も変わりません。以下は、2月議会及び6月議会での私の質問と執行部の答弁の趣旨です。

能登の観光資源について【平成23年2月議会にて】

《質問要旨》 没後400年を機に高まっている長谷川等伯への関心を一過性のものに終わらせるのではなく、石川が全国に誇れる財産として、等伯に焦点を当てた誘客活動、情報発信への取組みが必要だと思うがどうか。東海北陸自動車道の開通や、能越自動車道の整備などの交流基盤の整備が着実に進められていることを絶好の好機と捉え、県として能登全体への観光誘客に取組むべきと思うがどうか。

《知事答弁》 長谷川等伯について昨年没後四百年を地元マスコミ、経済界が一体となつての足跡調査に加え、観光協会による長谷川とうふグルメ博覧会の開催や最新デジタル複製による国宝松林図屏風の収蔵等、地元のすぐれた素材を発掘し磨き上げ、発信することは観光誘客に大事なことである。また、長谷川等伯展やとうふ伯グルメ博覧会を能登ふるさと博の七尾を代表するイベントに加えたいと思うし、のと鉄道を使った等伯ラッピング列車の運行なども関連事業として情報発信していく。更に観光客が求める本物志向に対し十分応えられる有数の観光地であり、能登井などの能登の海・山の幸についてのブランド化や日本海側初展示である能登島のジンベイザメなどで能登の交流人口拡大を図ると同時に昨年申請した世界で8箇所しかない世界農業遺産の一日も早い登録を期待している。



JR七尾線ラッピング電車
《県観光交流局資料掲載》

女性県政学習バスについて【平成23年2月議会にて】

《質問趣旨》 女性県政学習バスは、35人から50人までの女性団体が対象だが、定員が満たない場合でも、柔軟に対応すべきではないか、また、老人会や町内会など団体が参加する団体であっても、県政学習バスを活用できるよう、臨機応変に対応ができないか。現在、200台前後で運行しているとのことであり、今後とも200台を維持すべきと考えるがどうか。

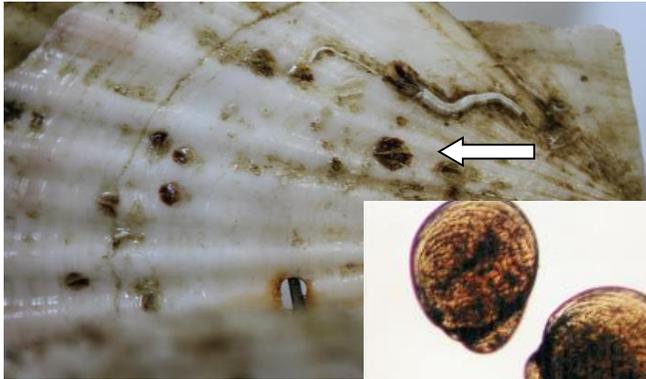
《県民交流局長答弁》 女性が県政に対する理解と認識を深め、団体企画立案参加者募集を自らが実施することで女性の潜在的な力や個性を引き出すエンパワーメントの向上を目的として昭和39年から実施している。来年度以降は、35人→30人に緩和し少人数にも対応。男性参加の団体には、来年度から新たに老人会や町内会対象のバス運行を行う。台数の維持は、今後とも現状を維持し200台の確保に努力する。事業の実施は、参加者の意見や要望を聞きながら取組む。



石川県庁

七尾湾のカキ養殖における種ガキの確保について【平成23年6月議会にて】

《質問要旨》東日本大震災により全国の約8割を占める宮城県の種ガキ生産が壊滅的な状態となっていることを受け、種ガキの入手に影響があるのではないかと心配されているが、カキの種苗確保対策事業によりどのようなことを行うのか聞く。



稚カキの育成
《県農林水産部資料掲載》

大きさは0.3ミリ(300ミクロン)程度です。

《農林水産部長答弁》本県の養殖業者は、広島県からほとんどの種ガキを購入しているが、震災により全国の種ガキの83%を供給している宮城県の種ガキ生産が壊滅的な被害を受けたため、次年度以降、全国的に種ガキ需給の逼迫の恐れがある。県内での種ガキの確保のため養殖業者自ら種ガキを作るために必要な調査、技術開発を行うこととしている。水産総合センターで種ガキのもととなるカキの幼生を採取する方法が効率的に行える時期と場所を調査するとともに良質なものを選別する作業をより効率的に行える手法の開発していく。

観光振興について 【平成23年6月議会にて】

《質問要旨》県内の学校やスポーツ・文化団体等が被災地の団体等を招聘し交流活動を行う際の経費を助成する制度を創設することだが、この助成制度が対象とする地域や活動、助成金の中身など制度の内容について聞く。また、こうした交流は地域性が高く、地元市町の関与が望ましいと考えるが、制度の運用に当たって市町との連携はあるのか、更に、観光誘客のみならず地域間の草の根レベルの交流を拡大する上で有意義な取り組みだと考えるが、被災地を直に訪れた知事は、この新たな取り組みにどのような思いを持っておられるのか聞く。

《知事答弁》風評被害や消費の自粛による県内観光産業は大きなダメージを受けているが、被災地に貢献できることの一つとしてこのたび県内の学校やスポーツ、文化団体等が被災地の学校などを招聘して行う交流活動に対し交流する際に要する経費を 県、関係する市町、観光事業者で分担をし、支援する制度の創設をした。これは、将来にわたり互いに支え合える環境を築き被災地と本県の更なる交流の拡大に寄与できると考える。



モンレージャズフェスティバルにて
《県観光交流局資料掲載》

県議会一般質問

県議会6月定例会は20日、本会議を再開し、8氏が一般質問に立った。夏場の電力不足に備え、県の節電対策を強化するよう求めた西田昭二氏(自民)に対し、谷本

正憲知事は「(県庁舎で)6%程度の追加節電を行い、これまでの取り組みと合わせ、10%の電力消費削減を目指す」と述べた。県民の節電意識高揚を図るため「いしかわエコチケット事業」の節電関連ポイントを増加させる意向も示した。

県庁舎 節電10%

6%追加削減 空調短縮や消灯

県は、2004年2月に環境マネジメントシステム、ISO14001(環境ISO)を認証取得。本庁舎の管理運用を工夫し、取得前に比べ、年間約4%の電力消費量を削減している。

谷本知事は北陸電力の節電要請に協力する意向を示した上で、県が取り組む具体策として、▽空調運転時間の30分短縮▽廊下、エントランスホールの消灯をめぐり、その後には

▽県庁舎、出先機関の一部LED照明化▽行政府舎など一部エレベーターの停止▽事務用パソコンの節電▽エレベーターは行政庁舎2基、警察庁舎1基の計4基を停止する。

地元建設業者の支援を

西田昭二氏

(自民)

「能登有料道路」新しい割引制度の利用状況は、

71万2千台で前年同期比31%増となった。

植村企画振興部長、植村土木部長、来月

「住宅の省エネ化」の太陽光パネルの設置に助成した。



後押しせよ。藤原環境部長

田料金所の利用台数は、業界の実情を把握

土木部長 セミナー開き実情把握

H23.6.21 (北國新聞)

被災地との交流促進

東日本大震災の被災者を県内に招き、スポーツや文化活動で交流する県の「被災地団体交流促進事業」で、谷本知事は福島県や宮城県の中高生らが来月にも来県し、県内のイベントに参加する計画が進められていることを明らかにした。西田氏の質問に答えた。

七尾のジャズフェス 東北の中高生ら出演

谷本知事は来月30、31日に七尾市で開かれるモントレージャズフェスティバルに能登(北國新聞)とした。

同事業は県内の学校やスポーツ、文化団体が被災地の学校などを招待し、交流する場合、交通費や宿泊費などの経費を県や地元市町が負担する。

除雪費用の追加支援を
西田昭二氏(自民)
「県と市町の人事交流の負担が大きい。国、阿久澤総務部長、実務研修として12市町から事務職12人、土木職5人を受け入れていく。財政的に厳しい市町の実態を訴え、早期実施を働き掛ける。」



「長谷川等伯展」などの関連事業を能登ふるさと博を代表するイベントに加えるなど積極的に情報発信していきたい。

土木部長 早期実施を働き掛ける

H23.3.2 (北國新聞)

H23.3.2 (北國新聞)

新聞あれこれ

記者辞

「帰って来いよ」

近況を冒頭に織り交ぜるのが定番の西田氏。今回は告示まで1カ月となった県議

選で、選挙区内をくまなく歩く姿をお遍路さんになぞらえ「袖を通せなかったスリッパが着られるようになった」。任期中の全定例会で質問に立ったことを振り返り「17回目があることを信じ、質問したい」と結ぶと、議場の引退議員から「帰って来いよ」と熱いエールが。自民の現職3氏が2議席を争う七尾市選挙区での生き残り懸ける決意をあらわすまで。